

【南大隅町】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末をはじめとする ICT 環境によって実現を目指す学びの姿

学習指導要領及び中央教育審議会答申「「令和の日本型学校教育」の構築を目指して」（令和3年1月）等において示されている「個別最適な学び」と「協働的な学び」について、1人1台端末及び高速大容量の通信ネットワーク等を通じて、次のような学びの姿を目指す。GIGA 第2期では1人1台端末を日常的に活用することにより、それぞれの学びを一体的に充実させ、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指していく。

（1）個別最適な学びの実現

- ・ 多様な児童生徒1人1人の興味・関心に応じ、その意欲を高め、やりたいことを深められる学びの提供。
- ・ 個々の学習状況を教師が一元的に把握し、それに基づいた指導の個別化。
- ・ 特定分野に特異な才能のある児童生徒が、その才能を存分に伸ばせる高度な学びの機会へのアクセス。

（2）協働的な学び

- ・ 探究的な学習や体験活動等を通じ、児童生徒同士で、あるいは多様な他者と協働しながら、自ら問題を発見して課題を設定し、解決していく児童生徒の育成。

2. GIGA 第1期の総括

本町では、令和2年度に1人1台端末の整備と学習用ネットワークの無線 LAN 環境を構築した。その結果、児童生徒がオンライン学習やクラウドサービスを利用できるようになり、各学校における授業支援ソフトやデジタルドリルの活用率も順調に伸びてきている。

しかし、時間の経過とともに、バッテリーの劣化やスペックの低さ等により活用の利便性が課題となった。

3. 1人1台端末の利活用方策

（1）1人1台端末の整備

令和時代における学校の「スタンダード」として、GIGA スクール構想による児童生徒1人1台端末環境を維持するため整備・更新するとともに、これを最大限生かすため、指導者用端末の整備及び十分な予備機を確保する。

（2）1人1台端末の積極的活用

端末を日常的に活用するため、ICT 支援員を活用する。1人1台端末は、社会全体で多方面にわたり利用が増加しているクラウドサービスの利用を進める上で不可欠な要素であり、学校教育が遅れをとることのないよう、積極的に活用を検討する。

（3）個別最適・協働的な学びの充実

様々な学習者支援ツールや AI を活用したデジタル教材など多様なツールを活用し、児童生徒の様々な状況に応じた学びを可能にする。「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に生かすとともに、個別最適な学びと、協働的な学びの展開に取り組む。

(4) 学びの保障

1人1台端末と高速ネットワーク環境の整備により、全ての児童生徒に ICT を活用した学習機会が与えられ、一人一人の状況に応じた学びを保障することができる。

不登校の児童生徒に対し、1人1台端末を活用したオンラインでの学習参加や指導支援ができる体制を整える。また、児童生徒の心身の変化を早期発見できるよう、1人1台端末を活用し、いつでも教育相談ができる仕組みを用意する。障がいのある児童生徒や病気療養児等、特別な支援を要する児童生徒の実態等に応じて端末を活用した支援を実施することなどを全ての小中学校が行うようにする。